

樹姉ばより

No.173
2019.3



桜山公園（藤岡）の冬桜



センター試験出陣式（1月17日）

慈悲喜捨

三月は、日本の各学校で卒業式が行われます。「卒業式」は、教育課程を全て修了した事を認定してお祝いをする式典です。「卒業証書」を授かることから、「卒業証書授与式」と言います。

日本では、明治五年の学制施行によって、各学年ごとに試験の修了者へ卒業証書を授与していました。明治十年になつて現在のようになつたといふことです。卒業の「業」は、「学問、技芸」などを意味し、「卒」は、「おわる、おえる」という意味があります。この二つを合わせると「学問をおえる」という意味になります。

大学などでは、卒業式に女性が袴を着用しますが、それは明治時代に生活様式が変化したことに関係があると言われています。椅子に座る機会が増えて、女性も動きやすい衣服が必要になると、働く女性たちが動きやすい「袴」を履くようになりまし。それが学校へ広がったといふことです。しかし、当時の学校は、一部の上流階級の人達だけが在籍していたので、袴は学校教育を終了して社会的知識や気概を身につけた人が着用するといふ意識があ

りました。それが現在まで残つていて、袴は卒業時の正装といふ認識があるといふことです。

また、女子生徒が、卒業する男子生徒から第二ボタンをもらうことがありますが、それは、学生服が軍服を元にしてゐることに関係してゐるようです。戦争に行く若者が、生きて帰るこゝろができなくなるかもしれない出兵の日に、一番大切な人に思いを伝え、形見として軍服の第二ボタンを渡したと言われています。第二ボタンが選ばれたのは、心臓に一番近くにあることから、心の近くにあった第二ボタンをもらうようになったといふ説があります。

このように卒業にまつわる話は多々ありますが、本校では、須弥壇の阿弥陀様に見守つていただき、今まで支えていただいた方々への感謝の気持ちを大切に、厳かな中にも温かな雰囲気になら、卒業証書授与式が肅々と挙行されます。

過ぎ去つた日々の、様々な思い出を心に浮かべ、次の扉を開くために皆で喜び合つて、生涯の良い思い出となるような式典にしたいと思つてゐます。

教頭 金安伸一

鳥たちに学ぶこと

樹徳中学校・高等学校校長
野口 秀樹



今年もまた樹徳を巣立つ若者達を笑顔で見送る時がやってまいりました。

三年間、あるいは六年間を樹徳で過ごした卒業生の皆さんは、どのような成長を果たせたでしょうか。きっとそれはこれからの活躍で見せてもらえることでしょう。私はそれを楽しみにしております。

大正三年に女子の学校としてスタートした本校、昭和三十五年に男子が入学し、それ以来男子部、女子部と男女を分けたクラス編成が行われておりましたが、皆さんが男子部女子部の最後の卒業生となります。歴史の大きな節目、とても思い入れが強い皆さんです。来年からは全学年共学の

樹徳となります。そして伝統的な校歌は男子校歌・女子校歌として残してまいります。

昭和十五年の卒業式で創立者野口周善先生が話された言葉「人生航路の難は、向かう山にあらず、向かう川にあらず、ただ人情反復の間にある。世間は厳しい、謙虚にたくましく」でありました。

七十九年の時間の変化があります。不思議です、この真理は変わっていない。今後、皆さんには是非人間力を磨いて一隅を照らす人として輝いて欲しいのであります。餞（はなむけ）にたくましい動物たちの話を致します。

まず初めはペンギンです。「最初のペンギン（First Penguin）」という言葉があります。ご存知でしょうか。ペンギンは、氷上で群れの一匹が海に飛び込まないと誰も飛び込まないのです。

誰かが飛び込めば次々と飛び込む習性があるのだそうです。ですからこの最初に飛び込む勇者のことを「最初のペンギン」というのだそうです。

す。

ペンギンにとったら海は食料の魚を確保する大切な場所、そして泳いで移動できる大好きな場所、でもここは生命の危険が伴う天敵であるシャチやアザラシがいるところでもあるのです。冷静に見るとペンギンにとっては海は危険な場所でもあったのです。

英語圏では「First Penguin」というと勇気をもって行動する人のことを指すのだそうです。



次はニワトリの話になります。（社）埼玉県私立中高協会の会長小川義男先生が協会機関誌「緑

陰」に書かれたものです。先生は北海道出身。私は大変親しくさせて頂いたおりますが、教育者としては大先輩であります。

「北海道の開拓当時、鷹は大変な害鳥であった。人間の隙を狙ってニワトリの雌鳥や雛を襲い、巣に運んで食べてしまう。」

鷹は高空を旋回しながらいつもチャンスを狙っている。それに気づくと雄鳥は、必ず雌鳥を縁の下に隠し、自らは切り株の上にながって、けたたましく叫び声を上げる。鷹の注意を自分に集めようとするのである。当然鷹は襲ってくるが、一族を守るため、毛を逆立てて捨て身の抵抗を試みる。

そのけたたましい叫び声に、人間が駆けつけてくるのだが、時には力尽きて雄鳥が犠牲になることもある。この情景を目の当たりにして私は『男はこのようにでなければならぬ』と感じつつ大人になったのだ。」

小川先生の文章の最後

に、縁の下に避難した雌鳥の様子が書かれております。

「雄鳥が命がけの戦いを展開している時、雌鳥達は安全な床下に隠れ、土をほじくり返して、ミミズなどをあさっているのである。」

落語ではないのですが、この話には落ちがありました。雄鳥のカッコ良さは男として私もあこがれるのであります。

ペンギンもニワトリも自然の摂理の中で生かされております。私達人間も同じように大自然の中で生かされているもの。彼らに比べると脳の発達には特別優れておりますが、彼らと同じ勇氣と行動力を潜在的に持っている。私達人間は困難を乗り越えられる力を授かっているのです。自信を持って未来を切り開いて行きましょう。

合掌



卒業生への饒のつとば

第三学年男子部主任

宮坂 伸一郎



三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。今年度の卒業式にて男女別学が最後となり、また、平成最後の年でもあります。様々な最後が重なる場面を迎えますが、四月より新たな生活を送る卒業生へ一言申し上げます。

決して諦めることだけではないでもらいたい。自己の更なる成長と飛躍に必要な困難も存在するのです。強い心で立ち向かう姿勢を見せて下さい。苦勞した分、多くの喜びがあると信じ、前向きな心で取り組みましょう。

四月には新元号が発表され、皇室では今上天皇が退位し、皇太子である徳仁親王が新天皇へと即位されます。日本が新たな時代へと進むこの分岐点において、今を生きる意義をしっかりと考えてほしい。新たな時代を創出するその起点に卒業生の君たちは立っているのです。本校で学んだ共生の精神を社会で発揮し、これからの日本を牽引する人材として、大いに邁進して下さい。

今後、皆さんには様々な困難が待ち受けているかもしれませんが、背を向けることなく、前向きに挑戦して下さい。挑戦して失敗する人、何もしないで失敗する人には、大きな違いがあります。皆さんには前者であってほしいと願います。また一度や二度失敗したとしても、地道な努力を重ねていくと、理解者や協力者が現れ、新たな道が開けてきます。困難や不可能を可能にするだけの若さと力が、皆さんにはあるのです。

第三学年女子部主任

高草木 裕子



三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの門出を心よりお祝い申し上げます。またこれまでも本校の教育方針にご理解・ご協力を賜りました保護者の皆様に、心より感謝致します。

今まで同じ教室で同じ勉強をしてきた仲間も、今日を境に全く別の道を歩むこととなります。自分自身：焦ったり、比較する必要はありません。皆さんそれぞれの個性に自信を持ち、選んだ道をまっすぐに進んで下さい。

先生方からのメッセージ

卒業おめでとう

自他ともに大切に

内藤

卒業おめでとう、新しい門出を迎える中で、君達には使命を感じ、頑張ってください。

明日を生きよう!!

一歩二歩先へ振り返らずに!!

飯島弘幸

温厚篤実

高草木裕子

一生幸せでいたければ、正直者でありなさい

榊野卓菜

勝ちに偶然の勝ちあり、負けに偶然の負けなし

卒業おめでとう

一生に一度の出会いは大切にしてください。

野平

必死に生きてこそ、その生涯は光を放つ

何事も一歩一歩がんばろう。

宮坂

卒業おめでとう、概しての三年間がこれから人生の糧となることを期待しています。

「負けな心」で、何事にも挑戦していきましょう。

田村

卒業おめでとう、三年間で出会った仲間達、その財産を大切に生きて下さい。

人生は後悔と自責の念でまみれているから、今更には前向きに生きていこう。

松島

全力で駆け抜けるゴールは最高だが、全力で転倒する痛みにも価値がある。

村上大

陽はまた昇り繰り返す

日々の努力を積み重ね

悔いのない人生を歩んでください。

松井

人生は短いものです

柳尾

卒業おめでとう、広い心、優しい心、穏やかに

井

Congratulations on your graduation. I hope that you will have a bright and successful future. Mr. Wright

常に向上心

幸せになりましょう!

金田

卒業おめでとう

縁を大切に、成就せよ、渡邊

卒業を迎えて、

「三年間を振り返り」

3年K組 今井 香蓮
(伊勢崎第三中出身)



樹徳高校で過ごした三年間は、たくさんの方に支えられ、たくさんの思い出を作ることができ、とても充実していました。

一年生のとき私は、新しい環境に馴染めるか、ゴルフと学校生活を両立できるか、とても不安でした。授業は、中学校のときとは比べものにならないくらい進むスピードが速かったため、遅れを取り戻すことに苦心し、心が荒みそうになっていました。そんな時、あるクラスメイトがノートを持って「わからないところがあったら教えるよ」と言ってくれたのを今でも鮮明に覚えています。当時の自分は心に余裕がなかったで、クラスメイトのささ

やかな気遣いが本当に嬉しかったですし、心の支えにもなりました。また、クラスメイトだけでなく、先生方も大会の結果を自分のことのように喜んで下さり、多くの人に支えられていることのありがたさを改めて実感しました。

行事を重ねていくうちにクラスにもだんだんと絆が生まれ、時には衝突したこともありましたが、それくらい何事にも全力で取り組みました。特に、二年時の体育祭では持ち前の団結力で、行進の部の最優秀賞を勝ちとることができました。しかし、上手くいったことばかりではなく、二年時最後の合唱コンクールでは、自分たちの最高の歌を響かせることができたにも関わらず、残念な結果に終わってしまいました。教室に戻って皆で泣いたことも、今となっては良い思い出です。

樹徳高校で過ごした三年間は、いつまで経っても色褪せないような、そんな思い出ばかりです。できるこ

となら、三年間同じ空間で、同じ時間を過ごした仲間と別れたくはありませんが、それは無理なこと。だからそれぞれの道を歩み、それぞれの将来に向かっていく仲間を応援し合いたいのです。私はプロゴルフファーズではなく大学進学という道を選びました。ゴルフや高校で学んだことを無駄にしないよう大学生活に活かして、将来、今描いているような自分になるために努力を続けていきたいと思っています。



「樹徳高校での経験」

三年K組 今泉 晴喜
(桐生新里中出身)



といた。将来的には大学進学することが目標なので、その両方を、文武両道を達成できる高校を探したときに、樹徳高校で両立して頑張っている先輩がいることを知り、入学を決意した。この三年間、多くの壁に直面したが、一つ一つ乗り越える度に、成長できたと感じている。

部活動においては、毎日が闘いだっただ。厳しい練習を乗り越えれば、必ず結果がついてくると信じて、必死に食らいついていった。自分たちの代では、副キャプテンを任せられチームを引っ張っていかねければならぬ立場になり、より一層甲子園を目標に努力をした。そんな中、人生最大の壁に直面した。夏の大会を控えた大切な時期に、目にボールが直撃し、大怪我を負ってしまったのである。手術をしたものの、完治することとはなく、左目が見えにくい状態でプレーせざるを得なくなった。チームに復帰したものの、距離感を掴むことができず、今まで通りのプレーをすることが難しくなった。正直、そのときの私はとても弱気で、仲間に弱音を吐いていた。しか

しそんな私に、皆は励ましの言葉をかけてくれ、立ち直れるように支えてくれた。改めて仲間の大切さを実感し、今まで以上に努力していこうという気持ちになることができた。夏の大会にも出場することができた。チームとしては甲子園出場という目標を達成することができず悔しい思いをしたが、この経験が今後の人生における大きな糧となると確信している。

学習においては、部活動との両立という点で非常に苦労したが、級友の手助けや、先生方の支えもあり、結果的に大学に合格することができた。間違いなく、自分一人の力では為し得なかったことだと思ふ。

この三年間、私は多くの人々に支えられ、ここまでやってきた。どんな壁に直面しても、皆で支えあえば乗り越えられるということをもつて経験し、成長できたと思う。樹徳高校に入学して心から良かったと、今では自信を持って言うことができる。この充実した三年間を胸に、これから先、邁進していく決意である。

晴れの日には枝が育ち

雨の日には根が育つ

「はなむけ」

蕾のふくらみが季節の訪れを告げる。新たな四季の廻りを喜び。また、去りゆく者を惜しむ。特にこの季節は、である。

春は別れの季節である。それも、別れることを喜ばなければならぬ。また生徒たちが巣立ってゆく。何度味わっても、ほのかに切ない喜びを感じる経験である。それでも、成長した生徒を送り出す感覚は格別のものがある。このために仕事を続けていると言っても過言ではない。

さて、少々格好をつけて書き出したが、別れに当たって、生徒諸君に何か饞（はなむけ）をしなければと考えた。何か気の利いた話でもして、今後の教訓になるような金言を、などとも思っただが、どうにも柄ではない、などと考えて

いるうちに、ふと、饞（はなむけ）の言葉が気になった。

「はなむけ」の意味は「旅立ちや門出を祝って、別れてゆく人に金品・詩歌などを贈ること。また、その贈り物」というもの。ハレの場面の言葉ではあるが、「別れゆく人」に向けた「贈る言葉」であるから、同じハレでも入学式で生徒を新たに迎え入れるときには使えない。ちなみに、上下関係はこたわらなくてよいように、上司が異動する部下に、以外にも、部下が退職する上司に、後輩が先輩に、旅立ちを激励する意味で使ってもよい。

「拙い挨拶ではごさいました、これをもちまして私からお二人への『はなむけ』の言葉とさせていただきます。」などのように用る。

「はなむけ」は漢字で「贐」とも書く。「饞」と字

るが、どちらを用いてもよいようだ。「饞別に贈る言葉」というイメージから「花束」が連想され、「はなむけ」「花むけ」だと思ってい

る人も多いようだが、これは間違いだ。

「はなむけ」以外に、以下の類語も挙げておく。あわせて覚えておくと便利だ。

饞別（せんべつ）
送別（そうべつ）
壮行（そうこう）
手向け（たむけ）
「饞別」は、「饞」をそのまま使っているの、まさしくその意味である。「送別会」「壮行会」は、どちらも人を送り出すための集まりだが、「送別会」は卒業生や退職者のように帰ってこない人、「壮行会」は海外赴任や大会遠征などい

ずれ戻ってくる人のためのものだ。
また、「手向け」には、饞別の意味の他にも「神仏や死者の霊に物を供えること。また、その物。」という意味がある。つまり、亡くなった人に対する意味があるので、普段使うには注意が必要だ。うかつに使って人の気分を害することが

あつてはならない。退職、転職などのお別れのシーンでは「手向け」の使用は避けた方がよい。

用例としては、
「退職される先輩へ、皆で『饞別』を贈った。」
「異動になった人を、『送別会』で送り出す。」
「全国大会出場選手を『壮行会』で激励する。」
「永遠の別れに、花を『手向け』る。」
などがある。

そもそも「はなむけ」は、「鼻向け」から始まったと言われる。「はなむけ」という言葉は、「馬の鼻向け」という故事に由来する。その昔、旅に出る人の安全を祈って、出発時にその人の乗っている馬の鼻を旅立つ先の方へ向けるという習慣があった。これが元となって、「馬の鼻向け」という言葉が成立した。この「馬の鼻向け」が、時代の経過とともに次第に略されて、現在の「はなむけ」、つま

り、旅立つ人への饞別を意味する言葉になったわけだ。ちなみに、この習慣については、今から千年以上前に記された紀貫之の『土佐日記』の冒頭で有名である。生徒諸君も、授業で学習したはずだが……きつと覚えていてくれることだろう。

「鼻向け」から「饞」「贐」へ。昔の人の言葉遊びの感覚には本当に感心させられる。卒業する諸君も、これから大変なことが多いと思う。そんな中、ぜひ、このような遊び感覚を忘れずに、心のゆとりを持ち続けていて欲しいものである。
(編集子)



桐生錦町一丁目

盛運橋薬局前

■樹徳コミュニティセンター「み法」3月の行事予定

- (1) ラタンアート工房「桐生藤工芸」
主催 野村ナナ子さん 7, 28日(木)
- (2) 七草ゼミナール塾
主催 上野文雄さん 21日(木)

一貫校

中学校

だより

志学の年 吾十有五にして学に志す

時が過ぎるのは早いもので、年度最後の弥生三月となりました。日に日に日差しも温かくなり、春の香を感じるようになりました。

学校にとって、三月は、この一年の総決算、一年を締めくくる大切な時期、そして、次のステージへの準備期間でもあります。生徒には、次学年へ向けて、しっかりと一年間のまとめをしていってほしいと願っています。

二月二十一日（木）に行われた立志式には、多くの保護者の方にご参加をいただきました、誠にありがとうございました。二年生一人ひとりが、これまでの自分の成長を振り返るとともに、それぞれの夢や目標の実現に向けて決意を表明し、大人への階段を一步踏み出しました。

標題の「吾十有五にして

学に志す」という一節は、

孔子が一生を回顧して人間形成の過程を述べた有名な論語の一節です。この一節には、将来のことを見据えて取り組む学問は、人としての成長につながるもので、その学問を志すのが十五歳であるという教えがあります。

中・高時代は、これから自分らしく幸せな人生を送るための知恵や技能の基礎を学ぶときです。また、変化していく未来を見据え、自分らしく納得のいく生き方をするにはどうすればよいのかを考えるとときでもあります。

グローバル化、科学技術の進歩、そして、高齢化が進むこれから先の時代を生き抜いていく生徒たちにとっては、今までの既成概念を一度捨て、新たな視点から自分らしい「生き方」「働き方」をしっかりと考えるなければならないときなのです。



節分会

二月三日、大善寺において節分会が行われて、樹徳中学校一年生が参加しました。

三年生は、九年間の義務教育を終えます。一・二年生もそれぞれ一学年進級しますが、しっかりと自分の目標を見据え、頑張っていると思うと思います。

保護者の皆様には、一年間大変お世話になりました。来年度も、生徒一人ひとりのさらなる成長と自己実現のために、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。

（副校長 澁谷和郎）



中国雑伎団の方が皿回しやフラフープなどの技を見せてくださり、そのすばらしい技に生徒たちは歓声を上げていました。その後、舞台上で豆まきをしたり、舞台下でお菓子を拾ったりして、大いに盛り上がりました。

介護講演会

一月三十日、樹徳中学校講堂にて「知ってもらおう介護の仕事」と題して講演会が行われました。講演と言っても、車椅子に乗り、押しついたりした車椅子疑似体験、プロテクターや手袋、眼鏡をし、重りをつけた高齢者疑似体験を通して

堀マラソン

二月十日、「堀マラソン」が行われました。樹徳中学校運動部の生徒は自分の出せる力を発揮して、一生懸命走っていました。中学男子の部で関子田侑君が三位に入賞しました。

ちなみに関子田君は翌日のぐんまマラソンジュニアロードレース大会の中学二・三年の部でも十位に入賞しました。

介護の仕事や高齢者について考えるものでした。車椅子の扱い方、高齢者の不自由さなどに思いをめぐらせて、今後の高齢者への接し方や、高齢化社会について、生徒なりにいろいろな考えるきっかけになったのかと思います。



幼稚園だより

「卒園おめでとう！」

光陰矢の如し、入園からあつという間に月日が流れ、この間、生活力の基礎や豊かな心を身に付け、立派に成長されました卒園児のみなさん。卒園おめでとうございます。

年長さんとしての一年間は、お兄さんお姉さんとして、また、樹徳幼稚園の顔として、園生活や行事において、いつも下学年をリードしてくれました。

運動会では、リズム遊戯に組立体操、借り物競走



今年度最後のお誕生会

(障害物)、対抗リレーにと大活躍し、たくましく成長した姿を見せてくれました。また、二学期締めくくりのなかよし発表会では、年長として多くの出演種目に大変でしたが、当日の発表はどの演目も最高の出来栄で、先生方をビックリさせました。スタートの英語で歌うクリスマスソングでは、大きな声が勢至ホールに響き渡り、「始めよければ終わりよし」の通り、スタートの勢いをそのままに、最後まで堂々と発表でき、素晴らしい発表会となりました。やりとげた達成感や満足感は、大きな自信となつて、小学校での活躍に大きく期待が膨らみました。終了後、一人ひとりの自信に満ちた顔が印象的で、今も忘れられません。

年少・年中と自然に恵まれた樹徳幼稚園で、夢中になつて遊んだ思い出とともに、年長さんとして大活躍したこの一年間の生活は、小学校でも大きな力となつて、背中を押してくれると思います。

卒業(園)というのは終わりではなく、実は新たな出発なのです。英語で卒業のことをコメントと言いますが、その意味には、卒業という意味の他に、「出発」・「門出」という意味があります。卒園は新たな門出の日であり、園窓を巣立つ日でもあります。新たにスタートすると、単立つ、飛び立つという場合は、そこに大きなエネルギーが必要で、ロケットが発射されるときの光景を思い浮かべてください。秒読みが始まります。

三・二・一・零、「ゴー。」とすさまじい音、煙とともに、ロケットが静かに飛び立っていきま



成長しましたすみれ組(2歳児)さん

ギーが蓄積されているのです。幼稚園の卒園証書は、みなさんが飛び立つに十分なエネルギーを蓄えた証拠なのです。運動会や発表会に向けて、苦しい練習に耐えた忍耐力、負けまいと努力したエネルギー、お誕生会や親子遠足等楽しい思い出や、茶臼山登山などの苦しい体験、あるいは先生の厳しい指導や温かい思いやり、お父さんお母さんの心のこもった温かいお世話、ときには過保護と思われる余計なお世話に至るまで、幼稚園生活の結晶が、卒園証書に書き込まれているのです。卒園証書は、小学校でも大いにがんばり活躍できる証明でもあります。そのことを忘れないでください。

「おおきくなるっていうことは」…。また一つ大



年長さんによる豆まき(大善寺)

きくなった卒園児。おめでとうございます。

「幼児教育・保育の無償化と責任」

幼児教育・保育の無償化法案が二月に閣議決定され、国会に提出される運びとなりました。成立によって、本年十月から無償化(三歳・五歳)となります。〇二歳児は、住民税非課税世帯を対象に無償化となります。

認定こども園(幼稚園型)に移行し、その対応や変化に試行錯誤の一年でしたが、来年度も保護者理解に一層努めるとともに、今いる子どもたちや、四月入園する子どもたちの幸せ、最大の利益となるよう、教育・保育の質の向上を図り、その責任を果たしていきたいと思ひます。ご支援ご協力よろしくお願いいたします。

園長 瀬谷 茂

「園児募集」
〇三十一年度入園願書(二・三歳・転入園)を、三月末日まで随時受け付けております。
〇見学はいつでもできます。お出かけください。

〇〇二七五二一五五十一
<http://www.jutoku.ed.jp/kinder>

3月(智慧)の行事予定

日	曜日	高等学校(本校)	一 貫 校	幼 稚 園
1	金	卒業式 卒業式後片付け(午後)	早朝自主学習(～6日) 高校卒業式	ひな祭り
2	土			
3	日	雛祭り		
4	月	学年末試験(～7日)	学年末試験(～7日)	リズム(全)・線(年少)
5	火	授業料納入日 スキー教室費用納入日	授業料納入日	お別れ遠足(わ鉄乗車と桐生が岡動物園) 保育料納入日
6	水	マイトリー基金抛金日		お茶のお稽古(発表会) 英語(全)・文字と数(年長)
7	木	市街地清掃		お別れ会予行練習
8	金	写真撮影(1・2年生) 私学校長会(樹徳)	保護者による生き方教室	お別れ会・謝恩会(保護者)
9	土		1学年・2学年保護者会	
10	日			
11	月	朝礼 防火避難・初期消火訓練②		リズム(全)・線(年少)
12	火			茶臼山登山 読み聞かせ(西山先生)
13	水			英語(全)・文字と数(年長)
14	木	第3回法人役員会		法人役員会 体育(全)・文字と数(年中)
15	金	視聴覚教室② 大学合格体験報告会 担任宛成績提出	視聴覚教室② 3学年保護者会	
16	土	職員出勤日 第3回入学手続き		
17	日			
18	月	LHR 教務宛成績提出		
19	火	制服アフターサービス		卒園式予行練習
20	水	学年別一斉指導 成績会議 出席統計提出 三学期出欠締切		第66回卒園式
21	木	春分の日		
22	金	終業式 大掃除	終業式 卒業証書伝達式	卒園児預かり保育①
23	土			
24	日			
25	月	生徒春休み クラブ強化合宿開始 総務会 奨学生審査会	春期特別補習(～27日)	第3学期終業式 卒園児預かり保育②
26	火	学籍整理・年度末事務 学年主任会議 教科主任会議		春休み(～4/7) 預かり保育①
27	水	学籍整理・年度末事務 新入生進学クラスオリエンテーション		預かり保育②
28	木	学籍整理・年度末事務		預かり保育③
29	金	学籍整理・年度末事務		預かり保育④
30	土			
31	日			

※ 1日は高等学校・一貫校・幼稚園の校内安全点検日です



樹徳高等学校
樹徳中学校
樹徳幼稚園

Web www.jutoku.ed.jp Mail office@po.jutoku.ed.jp

〒376-0023 群馬県桐生市錦町一丁目1番20号
TEL 0277-45-2258 FAX 0277-47-1671

〒376-0022 群馬県桐生市稲荷町4-12
TEL 0277-45-2257 FAX 0277-45-2262

〒376-0013 群馬県桐生市広沢町三丁目4475
TEL 0277-53-5571 FAX 0277-53-5572

発行責任者 野口 秀樹
印刷所 太陽印刷工業(株)

夢は大きく 根はふかく